

中国 リンゴの包装侵害訴訟で原告が勝訴

[FreshPlaza 2025年6月25日](#)

世界的な法律事務所であるベーカーマッケンジーと、中国の法律事務所である奮迅^{フエンシュン}(奮迅)との共同事業プラットフォーム(通称: ベーカーマッケンジー・フエンシュン)は、中国におけるトレードドレス(全体的な外観や視覚的特徴)侵害訴訟において、ロケットグローバル社(以下「ロケット社」)に重要な法的勝利をもたらした。

この訴訟は、ロケット社の特徴的な円筒形のデザインによく似たパッケージでリンゴを販売したとして告発された中国企業に関するものであった。浙江省高級人民法院は、被告がロケット社のパッケージと商標を悪意を持って模倣したと認定し、ロケット社に有利な判決を下した。同法院は、この行為がロケット社のトレードドレス及び商標権を侵害していると判断した。

ロケット社のパッケージは、同社のスナックサイズのリンゴが収まるように作られた透明な円筒形の容器で知られている。デザインには、赤いリンゴの図柄、ロケットもしくは葉のようなモチーフ、その他の特徴的な視覚要素が含まれている。同法院によると、このパッケージは中国の消費者に広く認識されており、ロケット社のブランドと強く結びついている。この判決は、中国の不正競争防止法に基づく保護の妥当性を認めている。同法院はさらに、パッケージは更新されたものの、全体的なデザインは一貫性を保っており、ロケット社のブランドに結び付いた視覚的特徴を維持していると指摘した。

この判決は、中国の食品業界におけるトレードドレスと知的財産の保護に関する重要な前例となる。ベーカーマッケンジー・フエンシュンのチームは、知財担当パートナーのアンドリュー・シム氏が率い、同プラットフォームのパートナーであるジェン・デウ氏とアソシエイトのジャクリン・ワン氏がサポートした。ロケット社の商業部門総括マネージャー兼法務顧問であるトム・レーン氏は、この決定を歓迎し、グローバルな成長戦略の一環として知的財産を保護するという同ブランドの取り組みを強調した。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

ベトナム 冷凍果実・野菜の人気の日本が高まる

[FreshPlaza 2025年6月26日](#)

日本はベトナム産果物・野菜の輸入を増やし、冷凍品が勢いを増す

ベトナムの輸出業者は、需要の高い日本の食品市場への進出を果たしており、冷凍果実と冷凍野菜が主要な成長分野として浮上している。ZNewsの報道によれば、イオントップバリュベトナムの塩谷雄一郎代表取締役社長は、日本の冷凍技術により、マンゴー等の農産物の品質を維持し、貯蔵寿命を延ばすことができるようになり、年間約450トンの冷凍マンゴーの輸出を可能にしていると指摘した。

その他の注目すべき出荷の事例としては、アンザン省からの62.5トンのミニオクラ、ラムドン省からの150トン以上の焼きナス及び12万パッケージ以上のピーマンとサツマイモが挙げられる。これらの製品は、日本の厳しい基準と消費者の嗜好に合わせてベトナムで加工・冷凍されている。

イオンは先日、日本で「ベトナムフェア」を開催し、生鮮果実や花を紹介して好評を博した。このイベントは、日本、香港、カンボジアに広がるイオンのネットワークを活用し、ベトナムの広範な輸出戦略を支援するものである。

日本では、特に国内での生産が限られる熱帯果実、コーヒー、カシューナッツに対する需要が引き続き堅調である。また、約63万5千人に上る在日ベトナム人コミュニティも、ベトナム産品の需要を後押ししている。

ベトナムの収穫後処理技術は依然として遅れをとっているものの、冷凍技術はこのギャップを埋めるのに役立っている。輸出業者が規模を拡大し、加工技術が洗練されるにつれて、日本は高品質で保存状態の良いベトナム産農産物の有望な市場であることが明らかになってきている。

出典: Znews

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)